

# 王伯祥日記

王伯祥 著

文獻資料叢刊

日記手札

珍稀

# 日記手札

# 2



國家圖書館出版社

王伯祥 著

# 王伯祥日記

## 第二冊

(1925年一月一日至十二月三十一日)

國家圖書館出版社

# 第二冊目錄

《國民日記》(二)

民國十四年(一九二五)

一月	一三
二月	四四
三月	七二
四月	一〇三
五月	一三三
六月	一六四
七月	一九四

---

八月	二二五
九月	二五六
十月	二八六
十一月	三一七
十二月	三四七
附錄	
收信表	三八五
發信表	三九九
收支一覽表	四三三

國民日記  
二



中華民國十四年國民日記目錄

陰曆甲子  
乙丑

中華民國十四年陰陽曆參照表

世界名都時刻相差比較表

陽曆月建記憶法

五千年間星期檢査表

五千年間星期檢査表說明

民國十四年要事表

日記用紙

提要

氣候

溫度

附 中外名人格言

姓名錄

收信表

發信表

雜錄

郵政寄費表

郵政寄費說略

快信局一覽表

電報章程摘要

各省電報局名

電報代月份地支表

電報代日期韻目表

郵轉電報辦法

收支一覽表

民國十四年收支統計表

繁利息表

按年存銀表

分年還銀表

清代年號及年數表

有約各國一覽表

各省經緯度里數

全國縣名表

通商口岸一覽表

附錄輪船停泊處

附錄外國租借地

中外度量衡比較摘要

衛生法

傳染病預防法

急救法

育兒法

中華民國十三年陰陽曆參照表

甲子 乙丑 中華民國十四年陰陽對照表 西曆一九二五年

陽曆一月	一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十	陰曆十二月	初七 初八 初九 初十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十	陽曆二月	一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一	陰曆正月	初十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十	陽曆三月	一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一	陰曆二月	初九 初十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十	陽曆四月	一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一	陰曆三月	初九 初十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十	陽曆五月	一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一	陰曆四月	初九 初十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十	陽曆六月	一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一	陰曆五月	初九 初十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十	陽曆七月	一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一	陰曆六月	初九 初十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十	陽曆八月	一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一	陰曆七月	初九 初十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十	陽曆九月	一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一	陰曆八月	初九 初十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十	陽曆十月	一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一	陰曆九月	初九 初十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十	陽曆十一月	一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一	陰曆十月	初九 初十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十
------	--	-------	--	------	--	------	---	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	-------	--	------	--

節氣 小寒 大寒 立春 雨水 驚蟄 春分 清明 穀雨 立夏 小滿 芒種 夏至 小暑 大暑 立秋 處暑 白露 秋分 寒露 霜降 立冬 小雪 大雪 冬至 小寒

國慶日 十月十日 紀念日 南京政府成立前北京宣布共和南北統一 國會開幕 國恥日 略 國慶紀念均從陽曆節氣初從陰曆 正月十七日 陽曆 正月初十日 陰曆 正月初十日 春社 三月初十日 春社 三月初十日 植樹節 三月十三日 植樹節 三月十三日 入夏 閏四月初二日 入夏 閏四月初二日 夏節 五月初五日 夏節 五月初五日 出雲 五月二十日 出雲 五月二十日 初伏 五月初五日 初伏 五月初五日 中伏 六月初五日 中伏 六月初五日 末伏 六月十五日 末伏 六月十五日 月偏食 六月十五日 月偏食 六月初三日 月偏食 六月初三日 社 八月初四日 社 八月初四日 開岳 八月初四日 開岳 八月初四日 秋分 八月十五日 秋分 八月十五日 孔子聖誕 八月廿七日 孔子聖誕 八月初七日 孔子聖誕 八月初七日 冬至 十月初七日 冬至 十月初七日



# 世界名都時刻相差比較表

智	美	日	波	埃	俄	希	德	奧	意	英	荷	法	西	中	國	澳	中	美	美	美	英	國	自
利	利	本	斯	及	羅	羅	意	地	大	吉	蘭	法	班	華	國	洲	華	利	利	利	吉	國	西
散	聖	東	德	開	斯	雅	志	利	利	利	海	牙	牙	民	名	紐	民	聖	聖	聖	利	東	
地	華	京	黑	羅	彼	格	柏	維	羅	倫	牙	里	馬	國	地	西	國	支	舊	檀	倫	徂	
牙	盛	京	蘭	羅	格	勒	林	也	馬	敦	牙	德	德	北	名	蘭	克	金	香	敦	名	東	
哥	頓	京	羅	勒	勒	典	納	納	馬	敦	牙	里	德	京	名	京	哥	山	山	敦	時	東	
子	子	未	卯	卯	卯	卯	卯	卯	卯	卯	寅	寅	寅	正	時	子	辰	寅	丑	正	正	時	
初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	午	刻	正	正	正	初	午	午	刻	
十	十	一	七	六	五	四	三	二	一	一	二	三	四	十二		十二	七	四	十	十二	十二		
點	點	點	點	點	點	點	點	點	點	點	點	點	點	點		點	點	點	點	點	點		
三	五	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	點		分	分	分	分	分	分		
十	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	為		十	十	十	十	十	十		
七	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	為		分	分	分	分	分	分		
十	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	為		分	分	分	分	分	分		
七	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	為		分	分	分	分	分	分		
十	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	為		分	分	分	分	分	分		
七	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	為		分	分	分	分	分	分		
十	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	為		分	分	分	分	分	分		
七	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	為		分	分	分	分	分	分		
十	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	為		分	分	分	分	分	分		
七	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	為		分	分	分	分	分	分		
十	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	為		分	分	分	分	分	分		
七	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	為		分	分	分	分	分	分		
十	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	為		分	分	分	分	分	分		
七	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	為		分	分	分	分	分	分		
十	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	為		分	分	分	分	分	分		
七	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	為		分	分	分	分	分	分		
十	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	為		分	分	分	分	分	分		
七	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	為		分	分	分	分	分	分		
十	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	為		分	分	分	分	分	分		
七	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	為		分	分	分	分	分	分		
十	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	為		分	分	分	分	分	分		
七	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	為		分	分	分	分	分	分		
十	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	為		分	分	分	分	分	分		
七	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	為		分	分	分	分	分	分		

## 陽曆月建記憶法

陽曆每年十二月。每月之大小有定。大月三十一日。小月三十日。惟二月則平年二十八日。閏年二十九日。故二月亦可稱小月。其各月大小之定序如左。

正月大 二月平 三月大 四月小 五月大 六月小  
七月大 八月大 九月小 十月大 十一月小 十二月大



記此定序有一簡法。如圖將手握拳。則手背上有四峯高起。三四低下。由峯而凹。口呼月數。挨次數之。周而復始。則正三五七八十。二等月皆遇高峯。即為大。二四六九。十一等月。皆遇低凹。即為小。置閏之法。每四年一閏。凡西曆紀元年數以四除之。得整數者。則其年置閏。如一九〇八年。一九一二年。皆為閏年。是也。但其年數。若以百除之。得整數。再以四除之。不得整數者。則仍不置閏。如一八〇〇年。一九〇〇年。皆非閏年。是也。閏年凡三百六十六日。平年為三百六十五日。以民國紀元言之。則元年為閏年。自元年起。直至一百八十五年。皆每四年一閏。

## 五 千 年 間 星 期 檢 查 表

世 紀 表	0 4	5 6	10 1	153-0	20 6	25 4	30 2	35 0	40 6	45 4
	1 3	6 5	11 0	16 6	21 4	26 2	31 0	36 6	41 4	46 2
	2 2	7 4	12 6	17 4	22 2	27 0	32 6	37 4	42 2	47 0
	3 1	8 3	13 5	18 2	23 0	28 6	33 4	38 2	43 0	48 6
年 表	4 0	9 2	14 4	19 0	24 6	29 4	34 2	39 0	44 6	49 4
	00X0	10 5	20*4	30 2	40*1	50 6	60*5	70 3	80*2	90 0
	01 1	11 6	21 5	31 3	41 2	51 0	61 6	71 4	81 3	91 1
	02 2	12*1	22 6	32*5	42 3	52*2	62 0	72*6	82 4	92*3
	03 3	13 2	23 0	33 6	43 4	53 3	63 1	73 0	83 5	93 4
	04*5	14 3	24*2	34 0	44*6	54 4	64*3	74 1	84*0	94 5
	05 6	15 4	25 3	35 1	45 0	55 5	65 4	75 2	85 1	95 6
	06 0	16*6	26 4	36*3	46 1	56*0	66 5	76*4	86 2	96*1
	07 1	17 0	27 5	37 4	47 2	57 1	67 6	77 5	87 3	97 2
	08*3	18 1	28*0	38 5	48*4	58 2	68*1	78 6	88*5	98 3
月 表	09 4	19 2	29 1	39 6	49 5	59 3	69 2	79 0	89 6	99 4
	一月 1(0) 二月 4(3) 三月 4 四月 0 五月 2 六月 5 七月 0 八月 3 九月 6 十月 1 十一月 4 十二月 6									
日 表	11 22 33 44 55 66 77 81 92 103 114									
	125 136 147 151 162 173 184 195 206 217 221									
	232 243 254 265 276 287 291 302 313									
星 期 表	星期 星期一 星期二 星期三 星期四 星期五 星期六									
	1 2 3 4 5 6 7									
	8 9 10 11 12 13 14									
	15 16 17 18 19 20 21									
	22 23 24 25 26 27 28									
於民國紀元年數。加 1911。即為西歷紀元之年數。										

## 五千年間星期檢查表說明

星期檢查表。爲最近美國某數學家所發明。乃用西曆紀年。自西曆元年。起。至西曆五千年止。此五千年內之某年某月某日。爲星期幾。皆可就此表檢得之。

民國元年。乃西曆之一千九百一十二年。故若於民國年數。加以1911。卽爲西曆年數。欲知某月某日爲星期幾。亦可就此表檢得之。今舉使用此表之一實例於左。

欲知民國六年四月十五日爲星期幾。則先於6年加以1911爲1917年。則此日卽爲19世紀17年四月15日。於是先就世紀表檢得19之旁註數字爲0。次就年表檢得17之旁註數字爲0。次就月表檢得四月之旁註數字爲0。次就日表檢得15之旁註數字爲1。乃以0001相加得1。卽於星期表內檢得1字在星期日。卽知是日爲星期日也。

西曆年數能以4除之年。多爲閏年。表中年表內有附以星號\*者。卽閏年也。凡遇閏年。則檢一月二月之數碼時。宜改用括弧內之數。如(0)(3)者是。

西曆整世紀之年。惟4能除盡者爲閏年。其餘皆非閏年。故年表內第一數00之旁。附以特別之記號x。因逢此數之年。有或閏或否之不同。當視世紀之數而確定。如逢1900及2100等年。其世紀數不能以4除。則依常法檢一月二月之數。如逢2000及2400等年。其世紀數能以4除。則檢一月二月時。當用括弧內之數也。

又現行之陽曆。經改正於一千五百八十二年。其年之日數。曾省去十日。(自十月五日起至十月十四日止)故世紀表內15之旁。註有兩個數碼。一爲3。一爲0。若欲查之日。在是年十月四日以前。則取用3之數碼。在是年十月十五日以後。則當取用0之數碼也。

國民四十年要事表

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--



表 事 要 年 四 十 國 民

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

國民十四年要事表

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

要 提

晨在懷之出，特向上海銀行蘇州分行詢購車票，乃因之且停  
 心，未日外款。迨子始心，遂習書出行，惟之悅之民力送，必事諸  
 誠極。在故子適子正由大不寐寐。即購票附回班，惜車東行，札晚  
 七時抵滬。到站心，先說子正送嘉，返京，而我則守行在子乃  
 歸。子正適飲心在，我以轉佳早寢矣。

(候氣) | (度溫)

所外竟見。

甲子与力十度間。

一月一日 (甲子十二月初七日乙酉)

木曜日 (即星期四)

民國十四年  
國民日記



提要

一月二日 (甲子十二月初八日丙戌)

金曜日 (即星期五)

民國十四年  
國民日記

(候氣) | (度溫)

晴時黃昏。

上午 40，下午 44。

依時入帳工作，知廣遊。既歸已被驚。但廣遊調充華研行理。  
對帳你曉先拜讀，近晚即去。

夜宿行五通，自以法以懷之。劍秋連初。十一時寢。  
自歸歸來，特病甚矣。今日入帳，本究勉勵，而極件以積  
供理情。且自極回席迷累二十天，夜間又自守對子，竟倦  
莫能名。預擬海著，遂不日不獨。